

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の精神を基盤に豊かな心と個性を持ち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる力を培い、広く世界を見つめながら、進んで社会の発展に貢献できる民主的な人間を育成する。

【めざす生徒像】心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心） 自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）
健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・心身ともに人間育成のため、「知・徳・体」の教育を調和的に展開する。
- ・全職員が教育に携わる者としての自覚のもと、協力して生徒・保護者・地域社会から信頼させる教育の推進に努める。
- ・多様な資質や生育歴を持つ生徒の存在を認識し、適正な生徒理解や明確な方針により、健全な社会生活を営むことのできる人間育成に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進
 - 学級経営の基盤となる教師と生徒の信頼関係の構築
 - 生徒を生かす場を設定し、所属学級に一人ひとりが誇りを持てる学級づくりの推進
 - 校舎内外に潤いのある環境作り
- (2) 「確かな学力」を身に付けるための学習指導
 - 基本的な学習態度、学習内容の基礎・基本の定着を図る指導
 - 学ぶ喜びや達成感が持てる授業展開の工夫
- (3) 健やかな心身を育てる教育の推進
 - 健康・安全に関する基本的な生活習慣の確立
 - 粘り強く取り組む身体活動の実践
 - 家庭との連携を図った食育の充実
- (4) 新たな教育課題への対応
 - 特別支援教育への理解と支援
 - 学校マネジメントを生かした教育活動

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 学習指導
 - 毎時間の授業を大切に、基礎・基本の定着とさらなる学力の向上を目指す。（指導力アップ）
- (2) 生徒指導
 - 一人ひとりの生徒に寄り添い、基本的生活習慣の定着と人として大切な心を育てる。（生徒理解）
- (3) 健やかな体
 - 部活動、生徒会活動、学級活動、学校行事等を中心に粘り強く取り組み、自分に負けない踏ん張れる子供を育てる。
- (4) 教職員の資質向上
 - 組織の一員としての在り方、人権感覚を醸成するとともに、公務員としての品格を高める。
- (5) 学校環境の整備
 - 新体育館関連整備、清潔で潤いのある学校づくりに努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※地域学校園内で共通する取組は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】肯定的評価80%	学校行事で生徒が意欲的・主体的に活動できる場と時間を計画的に確保する。	A	【達成状況】 ・A3については、教職員、保護者、生徒で数値指標は目標の80%を下回った。また、宇都宮市内中学校25校の平均よりも下回った。 ・その他については、目標に到達しているが、教職員、保護者、地域住民、生徒それぞれの感じ方や捉え方の違いがあり、目標の到達度が違う。 【次年度の方針】 ・時間やきまりを守る指導を継続させて行うとともに、道徳の時間の確保や与えられた時間内に工夫して行う特別活動等によって、生徒の資質の向上を図りたい。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせるため、教職員自ら模範を示すとともに、学校、家庭や地域との連携を図りながら指導していく。 ・今後とも学校公開の機会を設けたり、学校が行っていることを丁寧に説明していく。 ・授業指導に心掛けるなど教師の授業力向上を図っていく。 ・力、圧力による指導に頼ることなく、受容的で、柔軟な指導を行うとともに、コーチングの技能を身に付け、指導を行う。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】肯定的評価80%	生徒理解に努め、教師と生徒の人間関係を大切にしながら教育活動にあたる。	A	
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】肯定的評価80%	○5分前行動の徹底を図るとともに、教育活動全般を通してきまりを守る姿勢を育てる。	B	
	A4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】肯定的評価80%	授業の初めに明確な課題を提示するとともに、生徒の理解状況を確認しながら、わかる授業を目指す。	A	
	A5 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】肯定的評価80%	(1) 生徒がいいきと生活できるように、各行事のバランスを図る。 (2) 授業時間を確保するため授業交換などを積極的に行い、出張などでの自習を減らす。	A	
	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】肯定的評価80%	○家庭訪問や学校公開日の設定、各種だより、HPなどを利用して学校の情報を発信・提供する。	A	【達成状況】 ・どの項目も、数値指標を達成できた。 ・毎月発行される学校通信「こだま」やこまめに更新するHPで、学校の情報を発信しており、高い肯定的評価を受けた。 ・今年度は学校環境の整備を重点目標の一つにあげた。新体育館の完成に併せて、学校長を中心に環境の整備を行った。その結果は、市内中学校の平均を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度を実施したことを継続して行っていく。 ・次年度は体育館周辺の整備が開始されるので、学校（生徒と教職員）、家庭や地域が協力して環境を整備していく。 ・清掃活動を全教育活動（道徳、特別活動）を通して実施していく。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】肯定的評価80%	○3地区の地域懇談会を実施し、積極的な意見交換を行うとともに、地域の方々を経験を生かし、豊かな教育活動を展開する。	A	
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】肯定的評価80%	(1) 教室や廊下の掲示物を計画的に整備するとともに、できるだけ多くの生徒の作品を掲示する。 (2) ○学習にふさわしい環境を作るため、清掃活動の充実を図る。 (3) 潤いのある環境をつくるために、緑化活動に力を入れる。	A	

	B1 教員の人権感覚を磨き、教育公務員としての品格を高める。 【数値指標】肯定的評価 80%	校内研修等で教員の人権感覚を磨くとともに、教員同士、学校関係者や生徒への声かけを工夫する。		
教育活動の状況	A9 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】肯定的評価 80% A10 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】肯定的評価 80% 生活 B2 自分に負けない踏ん張れる生徒を育てる。 【数値指標】肯定的評価 80%	○生徒会、教職員、保護者、地域の方々が協力して、朝のあいさつ運動を実施する。 ○あらゆる教育活動を通して言語活動の充実を図るとともに、TPOに合った言葉遣いを指導する。 道徳教育、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）や部活動を通し、夢や目標を持ち、困難に負けない、強い心を育成する。	A B A	【達成状況】 ・生徒、教職員、保護者や地域の方全てからあいさつをよく行うという評価を受けている。宇都宮市内中学校の平均と比較しても高い。日頃からあいさつを習慣づけていること、保護者や地域の方の協力のもと、あいさつ運動を実施している成果を考える。 ・時と場に応じた言葉遣いは、数値指標を達成することができなかった。また、宇都宮市内中学校の平均と比べても低い。次年度以降の課題と考える。 【次年度の方針】 ・あいさつの指導は継続させ、あいさつするのが当たり前という雰囲気を持続したい。 ・言葉遣いの指導は、教職員がその都度指導する。そのために、教職員が話し合いを何度も実施し、教職員の自覚を高めていく。 ・教職員が互いに相手の名前を呼び合い、生徒の範を示す。
	A11 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】肯定的評価 80% A12 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】肯定的評価 80% 健康・体力 B3 心身の健康を図るため、積極的に部活動に参加している。 【数値指標】肯定的評価 80%	体育で正しい運動の仕方を身に付けさせるとともに、学級活動や部活動によって生涯体育につながる指導を行う。 ○「給食だより」や保健・学級活動で食の大切さを自覚させるとともに、健康のために苦手な食材も食べる姿勢を身に付けさせる。 (1) 各部の活動内容や取組状況を生徒会などで紹介する。 (2) 魅力的な部活動にすることによって、加入率を高める。	B B A	【達成状況】 ・A11の数値指標は生徒で、A12については教職員、保護者、生徒で達成されていない。また、宇都宮市内中学校の平均と比べてみると、A11、12ともに生徒の肯定的評価が低い。 【次年度の方針】 ・保健体育科を中心に運動の楽しさや喜びを味あわせ、運動が得意になるよう、あらゆる機会を利用して、体力をつけさせる。また、将来健やかに生きるための食生活の大切さが身に付くよう、給食だよりや保健・学級活動で指導していく。 ・家庭や地域の協力を得るために、従来から行われている給食だよりや保健だよりを作成し、周知を行う。また、学校給食委員会や給食試食会で、保護者の食への関心を高めさせ学校、家庭や地域が連携し、生徒に望ましい食習慣が身に付き、食をとおして自らの健康が管理できるようにする。
	A13 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】肯定的評価 80% 学 A14 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】肯定的評価 80%	確かな学力を身に付けさせるために、基礎・基本の定着を図る方策を各教科で工夫するとともに、家庭学習のやり方を工夫させる。 ○「学習の約束」を身に付けさせるとともに、言語活動を取り入れ、自分の意見をしっかりと発表できる態度を身に付けさせる。	B B	【達成状況】 ・A13の学習意欲については、例年数値指標が達成されていないもので、本年度も横ばいで改善されていない。 ・A14の学習態度については、教職員、保護者や生徒ともに、数値指標が達成されていない。宇都宮市中学校の平均に比べても低い。 【次年度の方針】 ・教師の話をしっかりと聴く姿勢を身に付けさ

	B4 教師の授業力を向上させる。 【数値指標】 肯定的評価 80%	授業参観や学校公開で授業を公開するとともに、教師同士が授業を見せ合い、助言し合う。	B せる。授業だけでなく、全校や学年での集会でも指導していく。 ・教職員が授業を見せ合い、分かる授業を実践するとともに、宿題（学力向上プロジェクト）を工夫し、学習を行う習慣を身に付けさせる。 ・課題を見つけ、それを解決していく姿勢を日常生活の中で身に付けさせる。また、授業やノートのまとめ方を工夫するなどし、言語活動を充実させる。 ・学習の約束を生徒ともに見直す。
本校の特色・課題等	B5 美しく豊かな心を育成する。 【数値指標】 肯定的評価 80%	体育祭・文化祭・ボランティア活動等への積極的な参加を図り、豊かな心と互いに認め合い磨き合う心を醸成する。	A 【達成状況】 ・学校行事やボランティア活動に対する数値指標は達成している。肯定的評価は90%を超え、積極的に参加し、高い成果を得られている。 【次年度の方針】 ・今年度の計画を継続的に実施しながら、学校・家庭・地域の連携をさらに強化するような計画を実施していく。

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体的に肯定的評価は、昨年度と比較し下回っている。このことを次年度への課題として捉え、具体策を考え、実践していく。
 - ・生徒の肯定的回答率は、教職員、保護者や地域の方のそれと比較すると、軒並み低い。それは生徒が自分自身を厳しく見つめ判断していることを示している。公正な判断力を保持させながら、賞賛することにより生徒に自信を持たせる指導を行っていきたい。また、教師自身が生徒の見る目を伸ばし、早期発見・早期解決を図る。
- 肯定的回答率の低い項目は、A3、10、12、13、14である。そのうち、旭地域学校園で共通する取組は、A3、10、12、14の4項目である。小中9か年かけて育成を図っていくことを目標にしているが、達成度は低い。小中で連携を図り、段階をおきながら、スモールステップの目標を設定しながら育成を図っていききたい。
- 学校からの情報発信については、ある程度の評価をいただいた。今後も学校、家庭、地域の連携を図るためにも、学校からの情報を発信していきたい。

6 学校関係者評価

- ・あいさつはよく行っている。学校で会うと、誰からも大きな声で挨拶され、よい気持ちにさせてくれる。保護者や地域の方のあいさつ運動でも、元気よくあいさつしている。しかし、学校から離れれば（距離的に）、あいさつはしなくなる。地域の大人からあいさつをしてもらえるよう啓発が必要であろう。
- ・地域の行事に中学生のボランティアが参加し、よく活動してくれる。地域の方が旭中の生徒を賞賛している。是非この伝統は継続して欲しい。
- ・授業中の様子を見ると、話の聞き方や積極的な発言に若干の問題がある。学習の仕方についての指導を行ってほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 授業と生活のきまりやマナーを守る姿勢や時と場合に応じた言葉遣いを身に付けるのには、小中の9年間をとおして継続的に指導していくことが大切である。小中の連携を密にし、発達段階に応じた指導をしていく。また、研修などで教師の指導力を向上させていきたい。
- 健やかな体を育てるために、保健や学級活動で食育に力を入れていく。食への関心と大切さを自覚させ、好き嫌いをなくす指導によって、残飯を減らし、健康な体を育成する。そのため、小中9か年間の食育の指導を継続的・計画的に実施するよう、小学校との連携を図っていく。各種だよりの発行や給食の試食会によって、家庭との連携を図っていく。
- 次年度の重点課題の一つは学力を向上させることと考えている。小学校と連携しながら、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。また、学力向上の施策として、本年度から取り組んだプロジェクト「学力向上対策」を継続発展させることを考えている。ノートに問題を書き、解かせることで、家庭学習の習慣化、基礎基本の定着を図っていききたい。